



五小だより

No.15



令和2年12月14日 館林市立第五小学校

人権集会 ～「誰か」のこと じゃない～

12月4日から12月10日までは「第72回人権週間」です。本校では10月19日（月）から11月6日（金）までを人権集中学習期間とし、人権に関する授業や人権作文・ポスター・標語の作成等に取り組んできました。そして、12月3日（木）には、感染症予防のため、体育館での集会ではなく全校放送で、代表児童による人権作文の発表を行いました。また、児童会代表委員会では、「笑顔のつぼみボックス」を校内に設置し、友達の言葉や行動によって笑顔になったことを掲示しています。コロナ差別や偏見が問題になっている今、改めて人権について考えてみましょう。

◆人権作文 ※田沼 駆くん（6年）がPC入力してくれました。

○「みんな友だち」を見て 金田 さき（2年）

わたしは、「みんな友だち」を見て、はじめは、鳥がペンギンをいじめていたけれど、あらしのときに、ペンギンが鳥をたすけてあげると、なかよくなっていったので、ほっとしました。ペンギンと鳥が友だちになって、けんかをしないで、おたがいにこまっていたらたすけあって、なかよくこうどうしているのを見て、「いいな。」と思いました。けんかをしないでなかよくすると、ペンギンも鳥もいい気分になります。わたしも、見ていて、いい気もちでした。もし、また、かみなりが来たり大雨がふったりして、鳥たちがこまっていたら、同じようにたすけてあげると、みんながよろこびます。そして、「友だちになってよかったな。」とあいても自分もうれしい気もちになると思います。

わたしは、わたしの友だちにも「友だちになってよかったな。」と思ってもらいたいです。だから、みんなとなかよくしたり、こまっていたらたすけたりしたいと思いました。もし、いじめられている子がいたら、「だいじょうぶ。」と言ったり、いじめている子に「いじめちゃ、だめだよ。」と言ったりして、みんなと友だちになりたいと思いました。

○「負けるな！千太」を見て 飯田 彩心（4年）

わたしは、負けるな千太を見て思ったことが二つある。

一つ目は、いじめている人もわるいし見てみぬふりしている人もわるいということだ。なぜなら、自分がいじめられたくないからいじめられている子を助けけないのは、いじめているのと同じだからだ。どうして、いじめをする人がいるのか。自分がされていやなことをやってはいけない。

二つ目は、千太くんときょうこさんの勇気だ。千太は、いじめられている女の子のことを先生に相談したことで助けた。きょうこさんは、夏休みに千太くんと仲良くなり、いじめられている千太くんを助けた。しかも、ただ千太くんだけを助けるのではなく、クラスをよくするためにホームルームを開きたいと先生に提案した。きょうこさんは、すごい。

わたしは、きょうこさんみたいにいじめられている人を助けてあげたい。みんなにやさしくして友だちをふやしたい。それから千太くんみたいに小さい命も大切にしたい。自分の命も周りの人の命も大切にしたい。

○インターネットと人権 清水 心暖（6年）

今年は、新型コロナウイルス感染症が流行している中、社会がかかえる貧困や人種差別が悪化しているという記事を読んだ。特に米国では、人種差別問題がどんどん大きくなり、白人警官の暴力により、黒人が殺されるという事件をたくさん報道していた。「BLACK LIVES MATTER（黒人の命も大切だ）」という声が広まり、人種差別が深刻化していった。このニュースは、私に「人権」について深く考えるきっかけをくれた。

そもそも人権とは、すべての人間が生まれながらに持っている、私たちが人間らしく、幸せに生きていくために認められている権利のことだ。しかし、そんな人権が侵害されてしまう場合もある。前に述べたように、人種差別をはじめ、男女差別、障害者差別など色々あると思うが、今、私にとって一番身近な問題は、インターネット上の人権だと思う。中学生になると、スマホやアイパッドを持ち始める人が多くなるという統計もあり、これからスマホを持とうと考えている私にとって重要な問題だと思った。テレビで女子高生がSNSで出会った男性と会ってしまい、殺されてしまったというニュースを見て、もう一度、スマホやアイパッドの利用方法を確認し、困った事にならないようにしたいと思ったからだ。

まず、インターネットによる犯罪件数は年々増えていて、過去最多の2095人となったそうだ。そのほとんどはSNSによる被害だそうだ。インターネット上で勘違いからうわさを流されたたくさんの知らない人から、ひぼう中傷を受けるという話はとても多い。根きよもないのに、こうしたうわさを流してしまうと、一気に広まってしまうので、書きこむ内容や、アップする写真などには、気をつけたほうがいいと思った。他にも、個人情報や安易にのせたり、無料だからといってむやみに情報登録したり、他人の悪口、差別的内容は、絶対にネットにあげてはいけない。そして、自分の言葉に責任を持つということ。少しでもおかしいなと思ったらすぐに信頼できる大人に相談する。このような点を守れば、インターネットはとても便利なものだ。

顔が見えなかったり、誰かわからなかったりするから、不用意な言葉を使って相手を傷つけてしまう人が多いのだと思う。わからないなら他人を傷つけていいということは絶対にない。言葉一つで、人を傷つけてしまうということを忘れず、これからも「人権を守る」ことの意味をしっかりと考えていきたい。

◆人権標語

○渡邊 千尋（6年） 「よく見よう 悪いところが すべてじゃない」

○森田 イワナ 澪（6年） 「あなたは 一人じゃない 友達だ」

○内山 マリーナ（6年） 「否定するな 個性はみんな ちがうもの」

交通少年団のビラ配り！

11月27日（金）に、交通少年団員の6年生8名が、地域のお店で交通安全標語のビラを配りました。この標語は4～6年が作成し、1～3年が色塗りをしました。子どもたちの交通安全の意識を高めるとともに、地域の方々に交通安全を啓発しようという目的で毎年行っています。館林警察署をはじめ、市役所安全安心課、交通安全協会の皆様には大変お世話になりました。



※【お詫び】 「1月の主な予定」は、スペースの都合上、2学期末号に掲載します。